

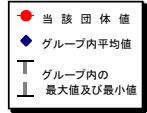
# (4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成27年度

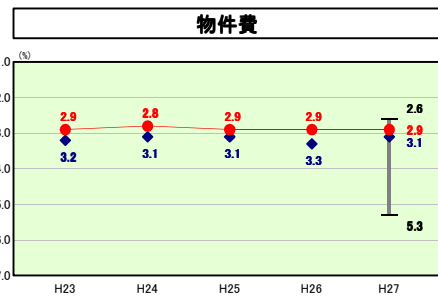
愛媛県

## 経常収支比率の分析

人口	1,415,997人	(H28.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	1,405,873人	(H28.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	5,676.11km <sup>2</sup>		実質公債費比率	12.4	%
歳入総額	630,760,779千円		将来負担比率	150.7	%
歳出総額	616,648,224千円		グループ	H23 D H24 D H25 D	
実質収支	2,429,877千円		(年度毎)	H26 D H27 C	
標準財政規模	358,009,623千円				

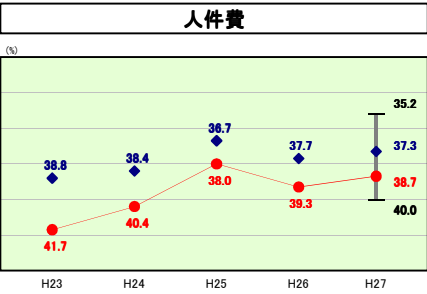


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]  
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



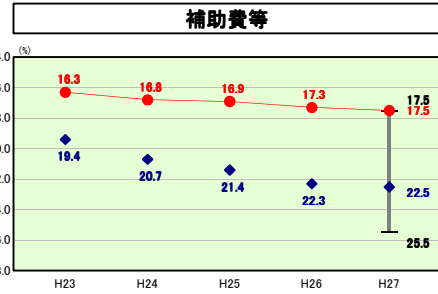
#### 物件費の分析欄

財政健全化基本方針等に基づき、徹底した事務事業の見直しに努めた結果、概ね横ばいとなっている。今後も、経常的な経費など内部管理経費の更なる見直しにより節減に努める。



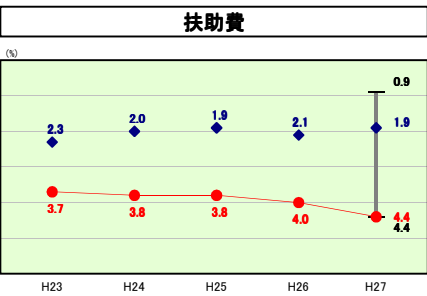
#### 人件費の分析欄

26年度は臨時的給与削減措置の終了により構成比率は上昇したが、27年度は、職員数の減等により構成比率は低下するなど、低下傾向にある。今後も、職員定員の適正化、行財政改革の取組みを通じて、総人件費の抑制に努める。



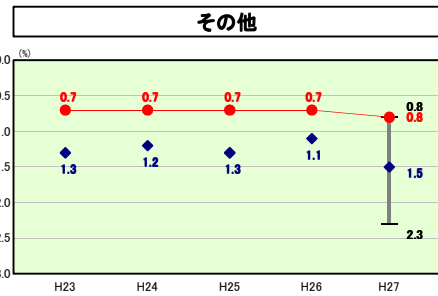
#### 補助費等の分析欄

介護給付費や後期高齢者医療関係経費など、高齢化の進行に伴う社会保障関係経費の補助費の増加などにより、構成比率は上昇傾向にある。なお、県単独補助金等については、財政健全化基本方針等に基づき、その必要性や効果等を十分精査し、継続して見直しを行ってきたところである。



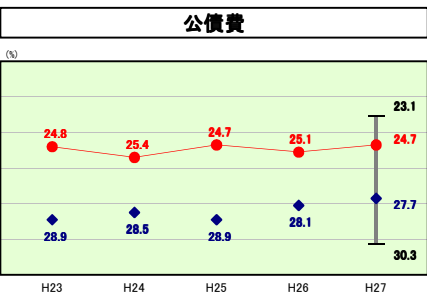
#### 扶助費の分析欄

障害者介護給付費等負担金や児童福祉施設入所措置費、障害児入所給付費等負担金に加え、27年度からの子ども子育て支援新制度の実施による社会保障関係経費の増等により、構成比率は上昇傾向にある。



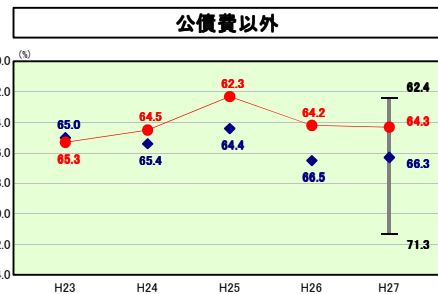
#### その他の分析欄

その他の経費を占める主なものは維持補修費であるが、経費の平準化や効率化に努めた結果、概ね横ばいとなっている。



#### 公債費の分析欄

過去の景気対策等に伴い発行した臨時財政対策債を除く地方債の元利償還がピークを越え、減少傾向にあるが、23年度以降横ばいで推移している。今後も借入期間や借入方法などの多様化や償還方法の工夫を図り、公債費の抑制・平準化に配慮していく。



#### 公債費以外の分析欄

高齢化の進行等による社会保障関係経費の増等があるものの、財政健全化基本方針等に基づき歳入歳出両面にわたる徹底した見直しを行った結果、概ね横ばいとなっている。なお、25年度は、国家公務員に準じて実施した臨時的給与削減措置による人件費の減のため構成比率が低下した。